

令和3年9月28日  
国土交通政策研究所

## 国内企業、高等教育機関における物流教育に係る意識等を調査

「物流分野における高度人材の育成・確保に関する調査研究」の公表

物流分野における高度人材の育成・確保への取組のあり方を検討することを目的に、国内外での高等教育機関および企業における物流人材の育成・確保に関する状況と、国内の企業、高等教育機関における物流教育に係る意識調査を実施。日本における高度物流人材の育成・確保のあり方について検討し、具体案を提言しました。

### (1) 背景と目的

ITの発展を背景としたサプライチェーンの高度化や、生産、市場のグローバル化などにより、物流に求められる役割は、企業経営における全体的な視点から戦略的に物流の効率化、高付加価値化を図ることに変化しており、物流分野では、現場を支える人材に加え、サプライチェーン・マネジメント(SCM)<sup>\*</sup>や経営全体の視点から物流の効率化と高付加価値化を図る為の企画・提案ができる「高度物流人材」の育成・確保が求められています。

本調査研究は、①「高度物流人材」の育成・確保のあり方、②物流分野を支える人材の裾野を広げる取組のあり方について検討を行うことを目的とし、令和元年度から2ヵ年計画で実施しています。

### (2) 調査研究の内容

令和2年度は、(1)欧州における物流教育の状況に関する文献、ヒアリング調査、(2)日本の企業、高等教育機関における物流教育への意識調査に関するアンケート、ヒアリング調査を実施。令和元年度からの2ヵ年の調査結果より高度物流人材教育の状況と関係者における意識を整理、高度物流人材の育成・確保のあり方について検討し、具体案を提言しました。

#### 【1】日本企業、高等教育機関における高度物流人材教育に係る意識

- 企業ではリカレント教育に対する期待大も、実施には人材不足、時間不足等の課題あり
- 大学教育への期待として、一般教養としてロジスティクス・SCMの概論的な科目の組み入れ、等

#### 【2】海外と日本とでの高度物流人材教育の状況比較

- 高等教育機関におけるロジスティクス・SCMコース：(海外)多数・大規模、(日本)少数・小規模
- 海外企業では、経営上重要な役割との認識。対して日本では、認識が薄いままの企業もあり、等

#### 【3】日本における高度物流人材の育成・確保のあり方について

- 当面は高等教育機関の「科目等履修制度」やオンライン、プラットフォーム等の活用に活路を
- 長期的には専門大学院など専門コースの設置を検討、等

○結果概要、本調査研究に関する論文・発表会等の資料は別紙を、本調査研究の全体の報告書は下記 URL から御覧下さい。

<https://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/index.html>

<sup>\*</sup>製造業や流通業で、原料や部品の仕入れから製造・流通・販売まで製品がたどる全過程の情報を管理し、企業収益を高めようとする経営手法。

＜お問い合わせ先＞

国土交通省 国土交通政策研究所 渡邊、南  
〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-6-1 四谷タワー15階  
電話：03-5369-6002(内線 208、205) FAX：03-5369-6009  
E-Mail：hqt-inquiry-pri@gxb.mlit.go.jp

○ 日本の企業、大学への意識調査（アンケート）結果から見た傾向

- ・ 必要な知識と学ぶべき段階： ▶ 企業では中堅社員、中間管理職までの継続的習得に集中傾向
- ・ 大学教育への期待： ▶ 一般教養としてロジスティクス・SCMの概論的な科目の組入れ
- ・ 期待水準： ▶ 現状では、物流企業よりも荷主企業の方が高くかつキャリアの早い段階での習得を期待
- ・ リカレント教育： ▶ 企業では期待大だが、実施には人材不足、時間不足等の課題 等
- ・ オンライン教育に関する意見： ▶ メリット、デメリット双方が認識され、社会人のリカレント教育に焦点を当てたオンライン拡充については、条件付での拡充を推す意見が多い
- ・ 物流の裾野を広げる取組： ▶ 見学会、シミュレーションゲームなど、体験型での方法を挙げる回答が多く見られた

○ 海外と日本での高度物流人材教育の状況比較（文献・ヒアリング調査）

- ・ 大学におけるロジスティクス・SCMコース： ▶ (米中独蘭) 多数・大規模、文理横断型多数、中国では外国教員も招請  
(日本) 少数・小規模
- ・ ロジスティクス・SCM分野が経営に果たす役割についての企業認識：  
▶ (海外) 重要と認識、米国企業は大学と連携、(日本) 重要と認識する企業もあるものの、薄いまの企業もあり
- ・ 実務経験後のリカレント教育： ▶ (海外) 一般的に実施、(日本) 有効と認識しつつ、社内人手不足等から制約
- ・ 採用： ▶ (海外) 企業と大学の連携等により専門性を評価して採用する流れが存在（キャリアパスの早期想像が容易）  
(日本) 新卒一括採用、企業内でキャリアを重ね専門性を高めるケースが多い

○ まとめ：日本における高度物流人材の育成・確保のあり方について

- ・ 学ぶべき内容と期待されるスキル ▶ 理論x実践の両輪、文理横断型
- ・ 高度物流人材のポジション ▶ 荷主企業及びグローバル展開しつつ荷主に先回り提案する物流企業による期待を想定
- ・ 高度物流人材の人材像 ▶ 荷主企業、物流企業共に経営全体視点・業界全体視点・社会的責任視点が必要
- ・ オンライン講義の是非 ▶ メリット、デメリット、対面型のメリットも含めて丁寧に把握し有効な活用方法を検討する必要
- ・ 現状の制約を踏まえた高度物流人材の育成、確保のあり方について（提言）  
▶ 当面は次の取組みを進めつつ、長期的には専門大学院など専門コースの設置を産学連携で検討していく
  - ① 大学での科目等履修制度の活用、企業連携による講座開設
  - ② オンライン、プラットフォーム等によるリカレント教育等の環境整備

### 関連論文・発表会等

#### 【令和2年度(2年目)調査関連】

「物流分野における高度人材の育成・確保に関する調査研究—2019年度～2020年度調査研究の概要—」、国土交通政策研究所紀要第79号

[https://www.mlit.go.jp/pri/kikanshi/pdf/2021/79\\_6.pdf](https://www.mlit.go.jp/pri/kikanshi/pdf/2021/79_6.pdf)

「物流分野における高度人材の育成・確保に関する調査研究」、国土交通政策研究所 研究発表会(令和3年6月17日)

[https://www.mlit.go.jp/pri/kouenkai/syousai/pdf/research\\_p200617/06.pdf](https://www.mlit.go.jp/pri/kouenkai/syousai/pdf/research_p200617/06.pdf)

#### 【令和元年度(1年目)調査関連】

「物流分野における高度人材の育成・確保に関する調査研究(中間報告)」、国土交通政策研究所 研究発表会(令和2年6月24日)

[https://www.mlit.go.jp/pri/kouenkai/syousai/pdf/research\\_p190624/06.pdf](https://www.mlit.go.jp/pri/kouenkai/syousai/pdf/research_p190624/06.pdf)

「物流分野における高度人材の育成・確保に関する調査研究(2019年度 中間報告)」、国土交通政策研究所報(PRI Review)第76号、pp.102-119

[https://www.mlit.go.jp/pri/kikanshi/pdf/2020/76\\_6.pdf](https://www.mlit.go.jp/pri/kikanshi/pdf/2020/76_6.pdf)

「物流分野における高度人材の育成・確保に関する調査研究(2019年度 中間報告その2)」、国土交通政策研究所報(PRI Review)第77・78号、pp.128-149

[https://www.mlit.go.jp/pri/kikanshi/pdf/2020/7778\\_9.pdf](https://www.mlit.go.jp/pri/kikanshi/pdf/2020/7778_9.pdf)

「物流分野における高度人材の育成・確保に関する調査研究(中間報告)」、国土交通政策研究所 研究第157号

<https://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/pdf/kkk157.pdf>